



法人企業景気予測調査結果

(令和2年10～12月期調査)

【山口県の概要】

目次	ページ
調査要領	1
調査結果概要	2
1. 景況判断	3
2. 企業収益	4
3. 設備投資	6
4. 雇用	7
参考資料	8

令和2年12月10日

財務省中国財務局

山口財務事務所

本調査についての問い合わせ先
財務省中国財務局山口財務事務所
財務課長 山本
TEL:(083) 922 - 2190 (代)
FAX:(083) 925 - 1325
URL: <http://chugoku.mof.go.jp/yamaguchi/index.htm>



山口財務事務所の

ホームページ

[調査要領]

1. 調査の目的と根拠

企業活動の現状と見通しに対する企業経営者の判断を調査し、地域経済情勢を的確に把握するとともに、財政・経済政策運営上の基礎資料を得ることを目的に、統計法に基づく一般統計調査として実施。

2. 調査実施時点

令和2年11月15日

3. 調査対象企業

資本金、出資金または基金(以下、「資本金」という。)1千万円以上(電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は1億円以上)の県内所在法人

4. 調査対象期間(時点)

- (1) 判断調査 …………… 令和2年10月から12月(または12月末)の現状(見込み)
令和3年1月から3月(または3月末)の見通し
令和3年4月から6月(または6月末)の見通し
- (2) 計数調査 …………… 令和元年度の実績、令和2年度の実績見込み

5. 調査対象企業数及び回答状況

区 分	業 種 別		規 模 別			合 計
	製 造 業	非 製 造 業	大 企 業	中 堅 企 業	中 小 企 業	
対象企業数	35社	76社	27社	28社	56社	111社
回答企業数	35社	74社	27社	28社	54社	109社
回答率	100%	97.4%	100%	100%	96.4%	98.2%

- (注)・大企業 : 資本金10億円以上
・中堅企業 : 資本金1億円以上10億円未満
・中小企業 : 資本金1千万円以上1億円未満

6. 集計方法

判断調査項目、計数調査項目とも単純集計。

7. グラフの見方

- (1) 棒グラフは、回答企業数の構成比または金額の増減率を表す。
(2) 折れ線グラフは、BSI(ビジネス・サーベイ・インデックス)を表す。

(参考)

BSI は、前期と比較した「上昇」または「下降」等の変化方向別の回答社数の構成比から、先行きの経済動向を予測する方法。

- (例) 前期と比べて 「上昇」と回答した企業の構成比・・・40.0%
「不変」と回答した企業の構成比・・・25.0%
「下降」と回答した企業の構成比・・・30.0%
「不明」と回答した企業の構成比・・・5.0%

景況判断 BSI=(「上昇」40.0%)-(「下降」30.0%)=10.0%ポイント(「上昇」超)

- (3) 点線の折れ線グラフは、前回調査時(令和2年7月から9月期)の予測を指す。

調査結果概要

1. 景況判断 ～「上昇」超幅が拡大～

- ・ 現状(令和2年10月から12月期)の景況判断 BSI は 14.7%ポイントと「上昇」超幅が拡大している。
- ・ 先行きは、翌期は「下降」超に転じ、翌々期は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

2. 企業収益 ～令和2年度は、減収減益の見込み～

- ・ 売上高は、製造業、非製造業ともに減収となることから、▲18.1%の減収見込みとなっている。
- ・ 経常利益は、製造業、非製造業ともに減益となることから、▲41.1%の減益見込みとなっている。

3. 設備投資 ～令和2年度は、増加の見込み～

- ・ 設備投資は、製造業、非製造業ともに増加することから、15.6%の増加見込みとなっている。

4. 雇用 ～「不足気味」超幅が拡大～

- ・ 現状(令和2年12月末)の従業員数判断 BSI は 34.8%ポイントで、前期(令和2年9月末)に比べ、「不足気味」超幅が拡大している。
- ・ 先行きは、翌期、翌々期ともに「不足気味」超の見通しとなっている。

1. 景況判断

○ 現状判断

- ・ 現状(令和2年10月から12月期)の景況判断 BSI は 14.7%ポイントと「上昇」超幅が拡大している。
- ・ 業種別にみると、製造業は 34.3%ポイントと「上昇」超幅が拡大し、非製造業は 5.4%ポイントと「上昇」超幅が縮小している。
- ・ 規模別にみると、大企業は 22.2%ポイントと「上昇」超幅が拡大し、中堅企業は 10.7%ポイントと「上昇」超に転じ、中小企業は 13.0%ポイントと「上昇」超幅が縮小している。

○ 先行き見通し

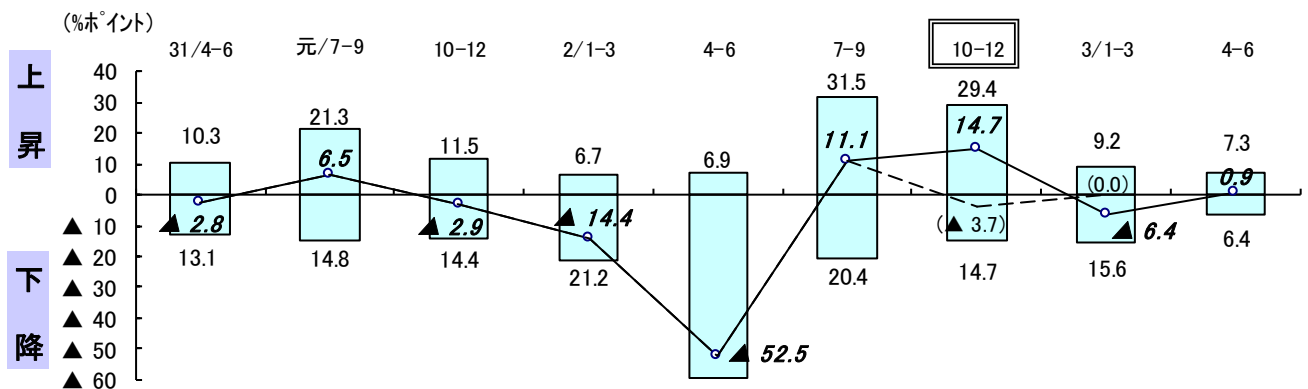
- ・ 翌期(令和3年1月から3月期)は「下降」超に転じる見通しとなっている。
- ・ 業種別にみると、製造業、非製造業ともに「下降」超に転じる見通しとなっている。
- ・ 規模別にみると、大企業は「上昇」と「下降」が拮抗し、中堅企業、中小企業ともに「下降」超に転じる見通しとなっている。
- ・ 翌々期(令和3年4月から6月期)は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

景況判断BSIの推移 (原数値)

(BSI : 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

・ 全産業

点線及び()は前回[令和2年7月から9月期]調査時予測
現状判断 ← | | → 見通し



(注) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、構成比の差を表す%ポイントは表記した計数の差と一致しない場合がある。

・ 業種別・規模別

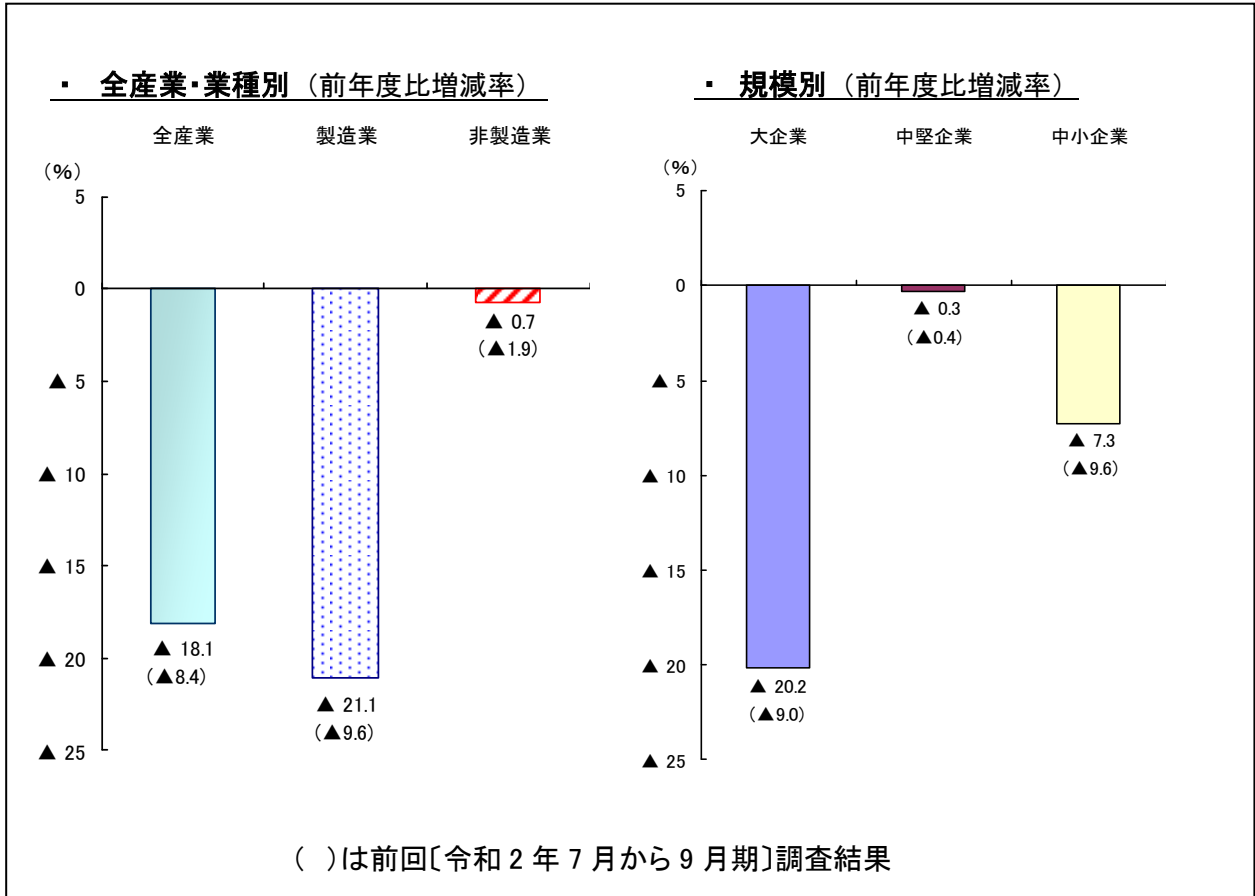
(%ポイント)

区分	前回(2/7-9)調査時予測	今回調査					
		2/10-12		3/1-3 見通し	4-6 見通し		
		現状判断	変化幅				
全産業	11.1	▲ 3.7	14.7	+ 3.6	▲ 6.4	0.9	
業種	製造業	5.6	▲ 11.1	34.3	+ 28.7	▲ 8.6	▲ 2.9
	非製造業	13.9	▲ 11.1	5.4	▲ 8.5	▲ 5.4	2.7
規模	大企業	18.5	18.5	22.2	+ 3.7	0.0	0.0
	中堅企業	▲ 3.4	▲ 13.8	10.7	+ 14.1	▲ 7.1	0.0
	中小企業	15.4	▲ 9.6	13.0	▲ 2.4	▲ 9.3	1.9

2. 企業収益

(1) 売上高（回答企業数 78 社：電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く）

- 令和2年度の売上高は、前年度比▲18.1%の減収見込みとなっている。
 - 業種別にみると、製造業は、業務用機械などで増収となるものの、石油・石炭、化学などで減収となることから、全体としては▲21.1%の減収見込みとなっている。非製造業は、小売などで増収となるものの、運輸・郵便、建設などで減収となることから、全体としては▲0.7%の減収見込みとなっている。



<参考>

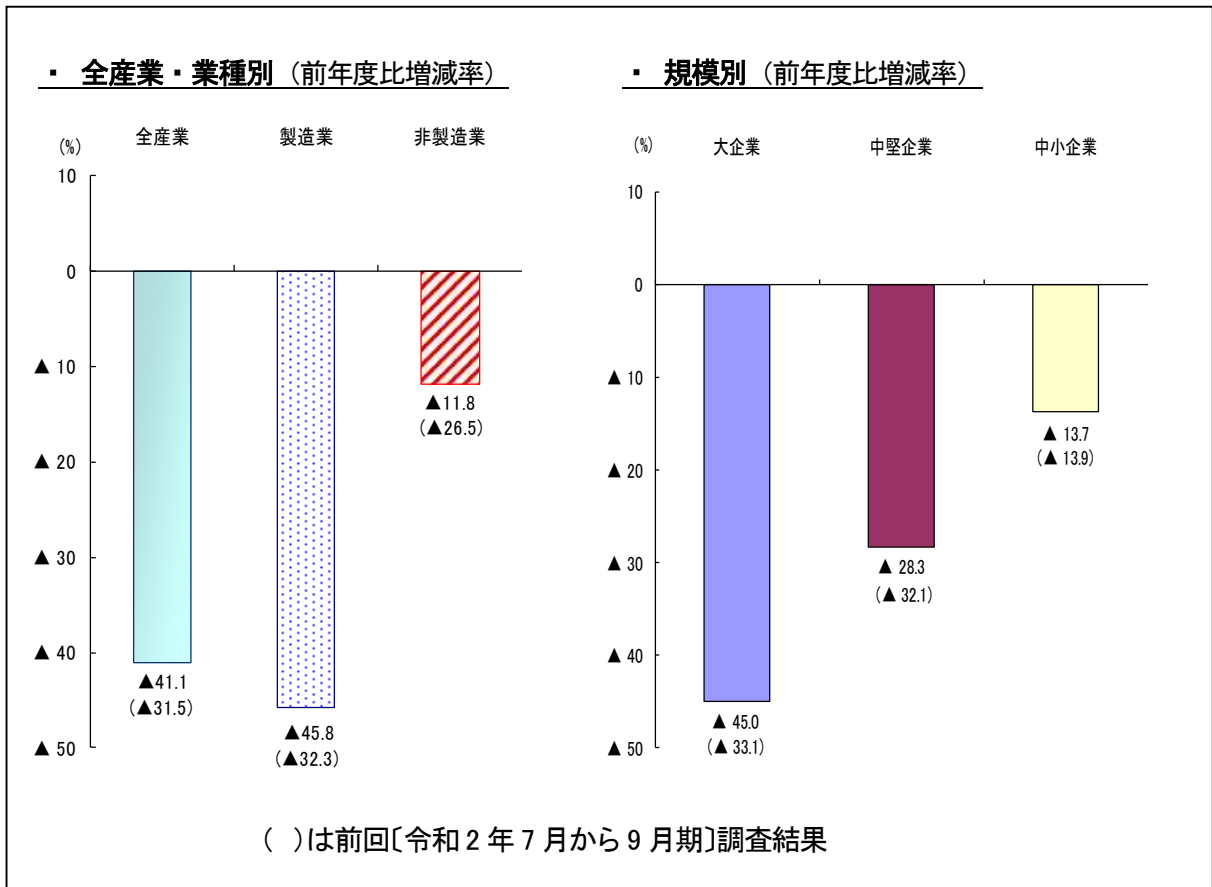
(前年度比増減率、単位：%)

	令和2年度		
		製造業	非製造業
全産業	[▲18.1]		[▲0.7]
	▲18.1	▲21.1	▲0.7
大企業	[▲20.2]		[2.9]
	▲20.2	▲21.9	2.9
中堅企業	[▲0.3]		[▲2.3]
	▲0.3	7.8	▲2.3
中小企業	▲7.3	▲11.0	▲4.5

[] 書は金融業、保険業を除き、電気・ガス・水道業を含む

(2) 経常利益(回答企業数 77 社: 電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く)

- 令和2年度の経常利益は、前年度比▲41.1%の減益見込みとなっている。
 - ・ 業種別にみると、製造業は、業務用機械などで増益となるものの、化学、窯業・土石などで減益となることから、全体としては▲45.8%の減益見込みとなっている。非製造業は、小売などで増益となるものの、学術研究・専門・技術サービス、建設などで減益となることから、全体としては▲11.8%の減益見込みとなっている。



<参考>

(前年度比増減率、単位: %)

	令和2年度		
		製造業	非製造業
全産業	[▲ 34.1]		[▲ 16.2]
	▲ 41.1	▲ 45.8	▲ 11.8
大企業	[▲ 35.7]		[▲ 13.8]
	▲ 45.0	▲ 48.9	19.6
中堅企業	[▲ 28.2]		[▲ 37.0]
	▲ 28.3	34.6	▲ 37.3
中小企業	▲ 13.7	▲ 16.0	▲ 8.0

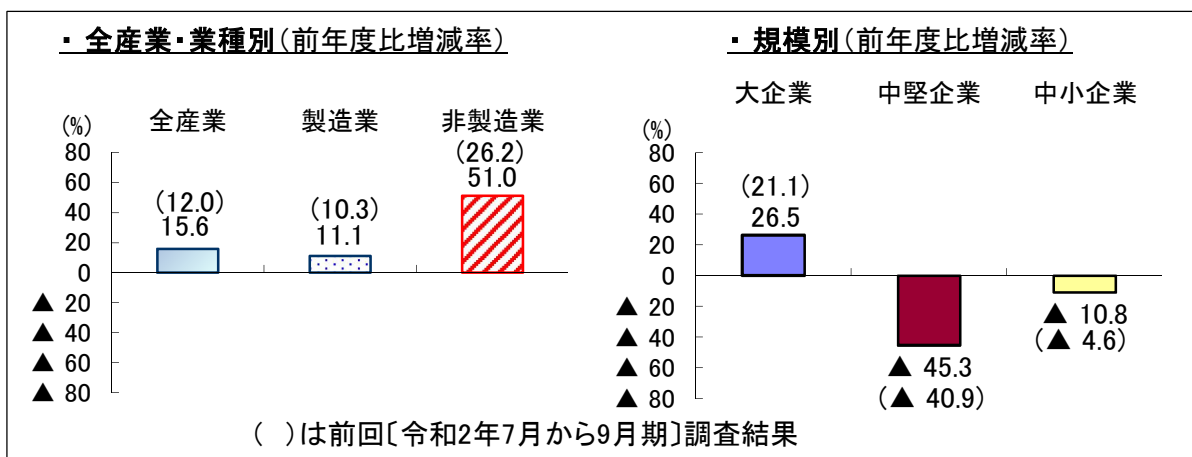
[] 書は電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を含む

3. 設備投資（回答企業数86社：土地購入額を除く、ソフトウェア投資額を含む）

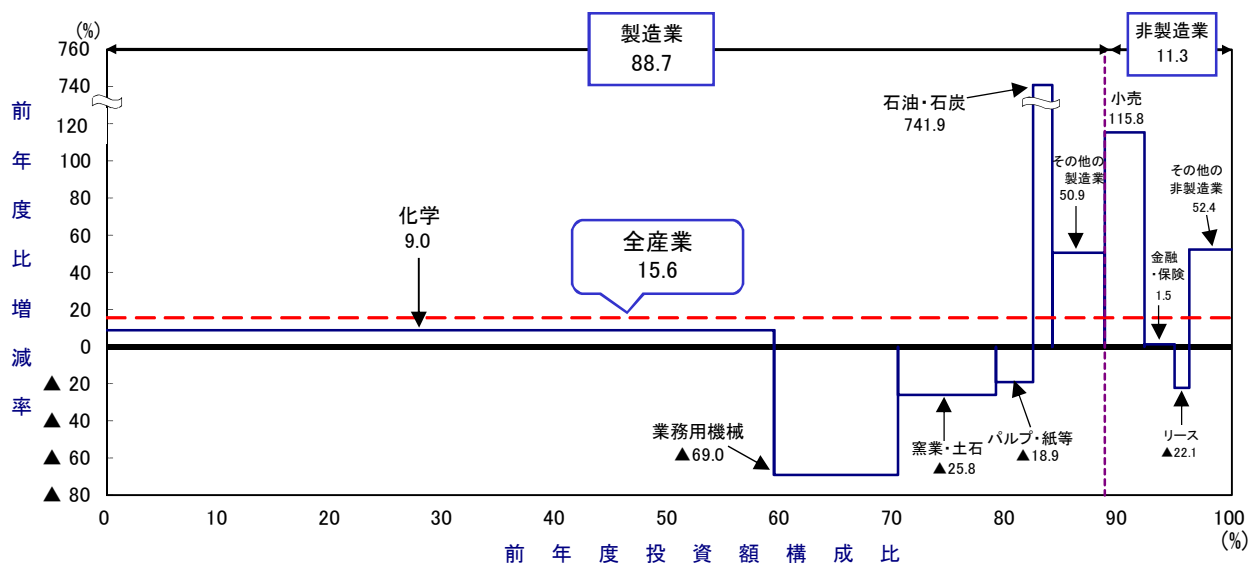
○ 令和2年度の設備投資計画は、前年度比15.6%の増加見込みとなっている。

・ 業種別にみると、製造業は、業務用機械などで減少するものの、石油・石炭、化学などで増加することから、全体としては11.1%の増加見込みとなっている。非製造業は、リースなどで減少するものの、小売、鉱業・採石などで増加することから、全体としては51.0%の増加見込みとなっている。

・ 規模別にみると、大企業(26.5%)は増加見込みとなっており、中堅企業(▲45.3%)、中小企業(▲10.8%)は減少見込みとなっている。



・ 主要業種別 設備投資状況(令和2年度)



<参考>

(前年度比増減率、単位：%)

	令和2年度		
	全産業	製造業	非製造業
全産業	15.6	11.1	51.0
大企業	26.5	22.5	71.4
中堅企業	▲45.3	▲65.6	51.8
中小企業	▲10.8	▲4.6	▲12.9

< > 書は土地購入額及びソフトウェア投資額を含む

4. 雇用

○ 現状判断

- ・現状（令和2年12月末）の従業員数判断BSI（回答企業数92社）は34.8%ポイントで、前期（令和2年9月末）に比べ、「不足気味」超幅が拡大している。
- ・業種別にみると、製造業は10.0%ポイントと「不足気味」超に転じており、非製造業は46.8%ポイントと「不足気味」超幅が拡大している。

○ 先行き見通し

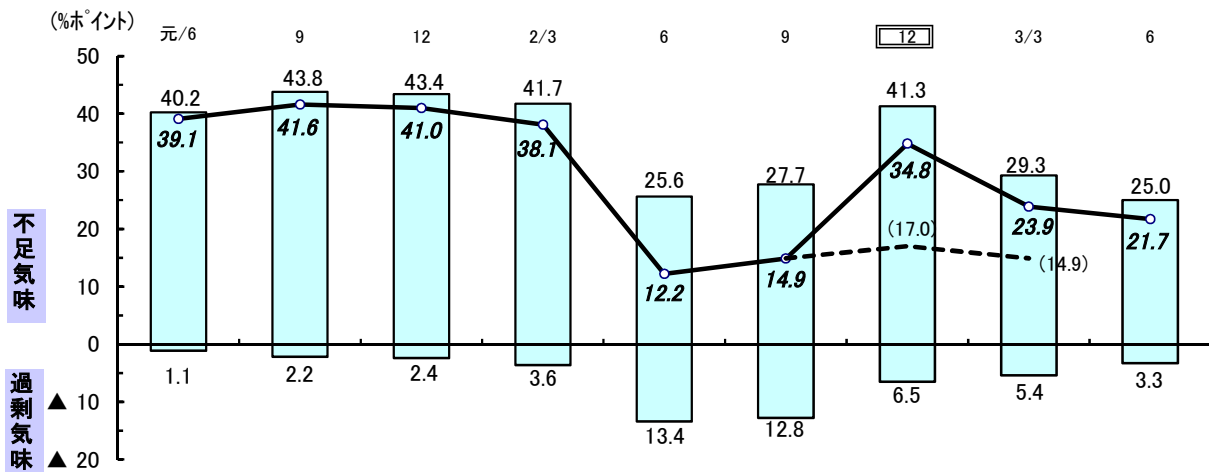
- ・翌期、翌々期は、ともに「不足気味」超の見通しとなっている。

従業員数判断BSIの推移（臨時・パート含む）（原数値）
 （BSI：期末判断「不足気味」-「過剰気味」社数構成比）

・全産業（期末判断）

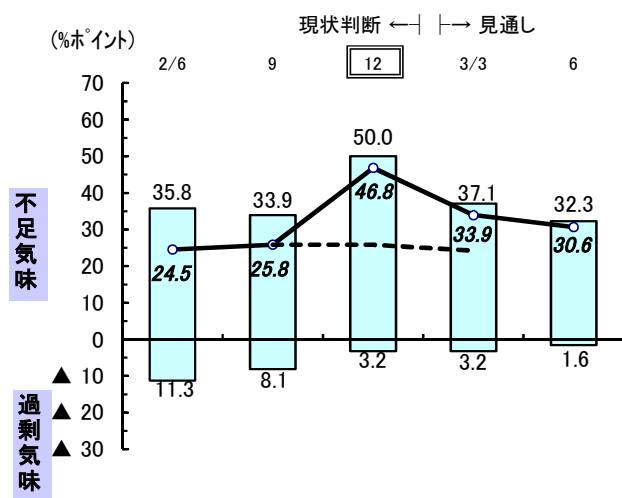
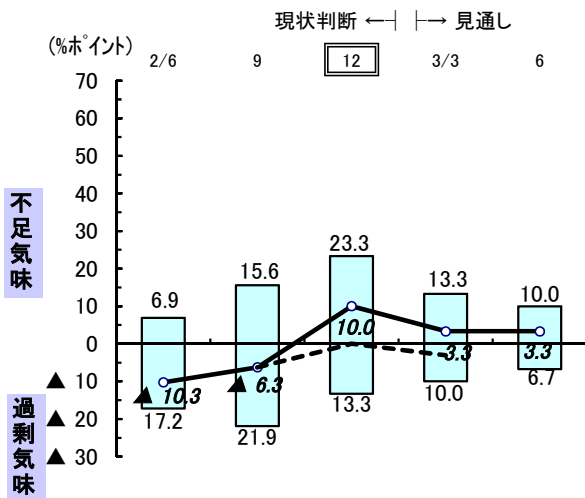
点線及び（ ）は前回〔令和2年7月から9月期〕調査時予測

現状判断 ← | → 見通し



・製造業（期末判断）

・非製造業（期末判断）



（注）計数は、それぞれ四捨五入しているため、構成比の差を表す%ポイントは表記した計数の差と一致しない場合がある。

〔参考資料〕

1. 判断調査BSI表(原数値)

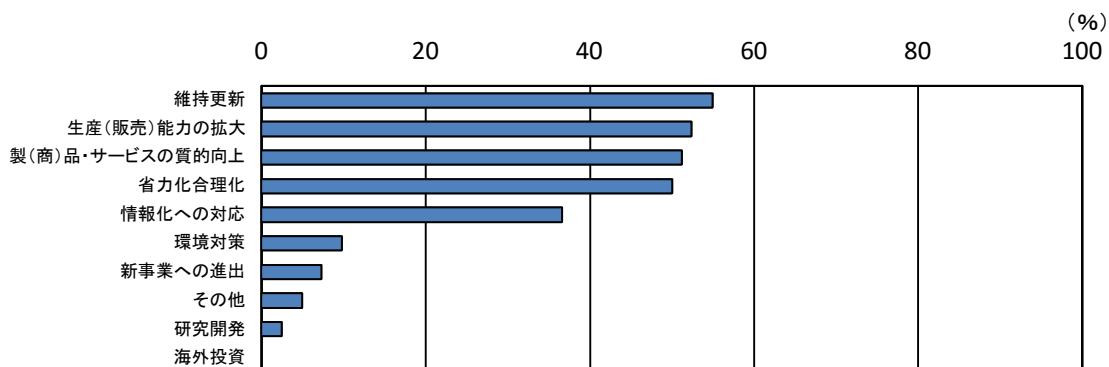
(単位：%ポイント)

		全産業								
		製造業			非製造業					
		2年 10~12 現状	3年 1~3 見通し	4~6 見通し	2年 10~12 現状	3年 1~3 見通し	4~6 見通し	2年 10~12 現状	3年 1~3 見通し	4~6 見通し
① 貴社の景況 (「上昇」-「下降」)	全規模合計	14.7	▲ 6.4	0.9	34.3	▲ 8.6	▲ 2.9	5.4	▲ 5.4	2.7
	大企業	22.2	0.0	0.0	35.3	11.8	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0
	中堅企業	10.7	▲ 7.1	0.0	28.6	▲ 42.9	0.0	4.8	4.8	0.0
	中小企業	13.0	▲ 9.3	1.9	36.4	▲ 18.2	▲ 9.1	7.0	▲ 7.0	4.7
② 国内の景況 (「上昇」-「下降」)	全規模合計	4.9	▲ 14.6	▲ 1.2	16.7	▲ 6.7	▲ 10.0	▲ 1.9	▲ 19.2	3.8
	大企業	29.2	8.3	0.0	37.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
	中堅企業	▲ 4.5	▲ 18.2	0.0	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	0.0	▲ 12.5	6.3
	中小企業	▲ 5.6	▲ 27.8	▲ 2.8	0.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 7.1	▲ 28.6	3.6
※ ③ 生産・販売などのための設備 (「不足」-「過大」)	全規模合計	9.9	7.4	4.9	6.5	0.0	▲ 6.5	12.0	12.0	12.0
	大企業	4.5	0.0	4.5	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0
	中堅企業	13.0	13.0	0.0	28.6	14.3	▲ 14.3	6.3	12.5	6.3
	中小企業	11.1	8.3	8.3	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 25.0	17.9	14.3	17.9
※ ④ 従業員数 (「不足気味」-「過剰気味」)	全規模合計	34.8	23.9	21.7	10.0	3.3	3.3	46.8	33.9	30.6
	大企業	8.7	4.3	8.7	0.0	▲ 6.7	0.0	25.0	25.0	25.0
	中堅企業	36.0	20.0	24.0	28.6	14.3	14.3	38.9	22.2	27.8
	中小企業	47.7	36.4	27.3	12.5	12.5	0.0	55.6	41.7	33.3

- ・ BSI表の例：①貴社の景況 = 直前の四半期に比べて「上昇」と回答した企業の割合(%) - 「下降」と回答した企業の割合(%)
- ・ ※は期末判断項目

2. 今年度における設備投資のスタンス

※10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。



3. 今年度における経常利益の要因

※10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

